

東洋アルミグループ CSR報告書

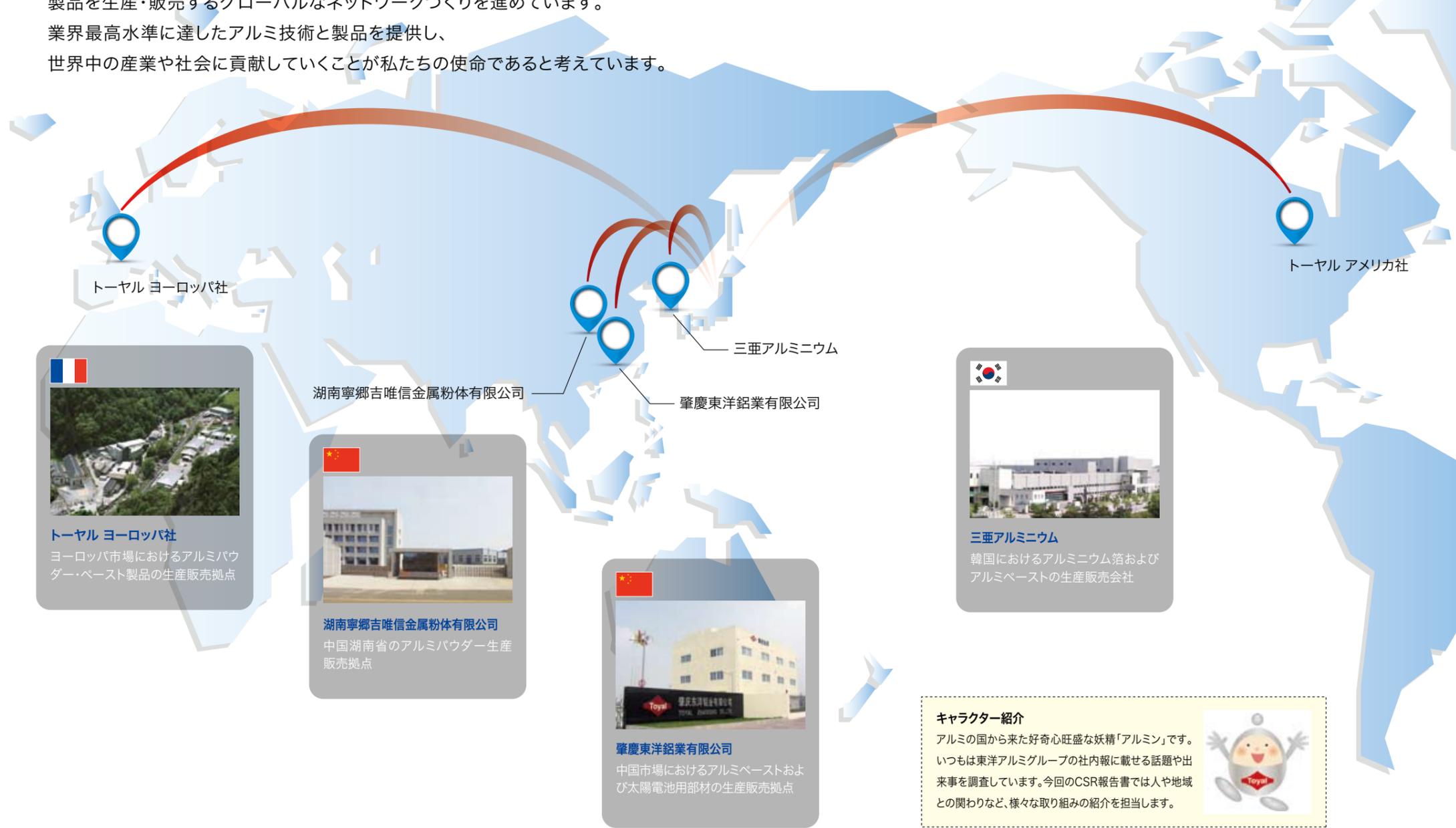
# CSR REPORT

## 2014



# 東洋アルミグループは、 グローバルな展開を図っています。

地球環境と調和した経営活動を通じて社会に貢献するという認識の下、  
私たち東洋アルミグループは、アルミ箔事業、パウダー・ペースト事業、ソーラー事業、  
日用品事業に取り組み、国内ではリーディングカンパニーとしての地位を確立しています。  
また、世界各国に高品質の製品を提供しており、さらに技術提携や生産拠点の建設を進め海外の拠点から  
製品を生産・販売するグローバルなネットワークづくりを進めています。  
業界最高水準に達したアルミ技術と製品を提供し、  
世界中の産業や社会に貢献していくことが私たちの使命であると考えています。



**キャラクター紹介**  
アルミの国から来た好奇心旺盛な妖精「アルミン」です。いつもは東洋アルミグループの社内報に載せる話題や出来事を調査しています。今回のCSR報告書では人や地域との関わりなど、様々な取り組みの紹介を担当します。

- 1 会社概要
- 2 編集方針
- 3 トップメッセージ
- 特集
- 5 省エネルギー活動の取り組み
- マネジメント
- 7 CSR活動について
- 8 CSR基本方針 / CSR行動憲章
- 9 CSR活動アクションプラン
- 11 コーポレート・ガバナンス
- 12 コンプライアンスの取り組み
- 環境調和への取り組み
- 14 東洋アルミグループの環境方針
- 15 環境目標への取り組み
- 17 環境会計/環境マネジメントシステム
- 18 環境に関する規制遵守の状況
- 社会への取り組み | お客様との関わり
- 20 品質保証の取り組み
- 20 情報セキュリティの取り組み
- 社会への取り組み | 従業員との関わり
- 21 安全衛生の取り組み
- 23 明るく健康な職場作り(AKS)活動
- 24 ダイバーシティマネジメントの推進
- 社会への取り組み | 地域社会との関わり
- 25 地域社会貢献活動
- 28 学術支援活動
- 29 東洋アルミの概要

**編集方針**

■はじめに  
本報告書は、東洋アルミグループのCSRに関する考え方や取り組みについて、ステークホルダーの皆さまにわかりやすくご報告し、ご理解いただくことを目標としています。

■参考ガイドライン  
本報告書は、環境省作成「環境報告ガイドライン(2012年度版)」および「GRI(Global Reporting Initiative)ガイドライン(2006)」を参考にして作成しています。

■対象期間  
本報告書のデータ集計期間は2013年4月~2014年3月です。  
\*一部、これ以前のデータおよび以降のデータを含みます。

■対象範囲  
東洋アルミニウム(株)および対象関連会社18社

■前回からの変更点  
本報告書ではグループ各社に関する情報を充実させ、東洋アルミグループ全体でのCSRに関する取り組みを知っていただけるように努めました。特集ページで「省エネルギー活動」を取り上げ、CO<sub>2</sub>削減の取り組みを紹介しています。

■発行時期  
2014年9月(次回:2015年9月予定、前回:2013年10月)

■表紙デザイン  
緑を基調とした地球のデザインに動物や子供たちの絵を入れることで、未来や自然との共生をイメージしました。また地球の全体を描くことでCSR活動を広げ、浸透させる意味を込めています。

会社概要

特集

マネジメント

環境調和への取り組み

社会への取り組み

東洋アルミの概要

会社概要

特集

マネジメント

環境調和への取り組み

社会への取り組み

東洋アルミの概要



代表取締役社長  
山本 博

### 2013年度を振り返って

2013年度は国内では「震災復旧需要」、「衆議院、参議院のねじれ解消」、「アベノミクスでデフレからの脱却、成長の3本矢」と経済成長重視戦略へ舵がきられた結果、第一4半期からGDPでもプラスに転じて明るさが見えてきました。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決ま

り、インフラ整備のための新たな需要が期待されます。海外ではEU諸国の債務問題も解決の目処がつき経済の成長回復が期待されました。米国は堅調、欧州は回復基調、中国も低成長とまだら模様です。

### オンリーワン製品をつくり、世界に広げていく

オンリーワン製品は、まったく新しい発想に基づくもの

もありますが、今あるものを応用することや、組み合わせを変えることで、できるものもあります。

また、グローバルな生産、販売を強化するために中国だけでなくアセアン諸国への進出を図っていきます。

化粧品向けの「コスミカラー」は、海外の大手化粧品メーカーのマニキュアに採用されています。

また環境対応製品として、溶剤を使わない水性塗料用顔料「エメラル」を開発し、ヨーロッパへも自動車メーカー向けに拡販していきます。

ソーラー事業では、太陽電池の電極インキ「アルソーラー」とバックシートの「トータルソーラー」の2製品を展開しています。製品開発は日本、生産は中国に移行しました。

日用品事業では、キッチン用のアルミ製品市場がシュリンクしています。その対策として電子レンジで調理する冷凍食品の紙トレイなど、紙製品のラインナップを拡充していきます。紙容器はリサイクルしやすいため、環境面からも今後は成長していくと考えております。

### 中長期計画 VISION2016完遂に向けて

VISION2016完遂まであと3年になりました。全員が目標を再認識し達成に向けて戦略、目標を構築します。

#### 「VISION2016定性目標」

- ① 2016年において海外の重点市場、特に中国・アセアン・インドにおいて顧客の要求する品質を確保し、価格競争力と開発競争力を備え、顧客に感動を与えられる生産・販売体制が確立されている。
- ② 2016年においてアルミ箔事業、パウダー・ペースト事業、ソーラー事業、日用品事業に続く環境革命に対応した「付加価値力」の有る第5の柱となる新規事業を作り上げる。

### 2014年度は「克己復礼」をモットーに

音読みは「こつきふくれい」、訓読みは「おのれにかちて、れいをふくす」です。意味は「自分の欲望を抑え社会規範、礼儀にかなった行動をすること」でCSRの基本を推進させます。

近年、企業を取り巻く内外の環境が大きく変化しており、コストダウン・優れた製品・サービスの提供だけでなく、環境保護、人権擁護など、さまざまな観点から社会に対する責任を果たすことが求められています。

このCSR報告書を通じて、ステークホルダーの皆様へ東洋アルミグループの活動をご理解頂ければ幸いです。

#### 経営理念

私たち東洋アルミグループは、

1. 堅実な事業経営を通じて、常にお客様に感動を与え、社会に有用で、且つ環境にやさしい製品およびサービスの提供を目指します。
2. 絶えざる技術革新に努め、高い技術力を活かした製品の提供に努めます。
3. 活き活きとした自由闊達な企業風土を育み、集団の天才を目指します。
4. 社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。

#### 行動方針

「未来を創る、私が創る。」

1. 一流を目指そう。
2. 知恵くらべに勝とう。
3. コミュニケーションを深めよう。
4. 失敗力を身につけよう。
5. 感性をもっと働かせよう。
6. アライアンスの構築を図ろう。
7. 安全への意識をもっと高めよう。

## 省エネルギー活動の取り組み

### 地球温暖化の防止に取り組む

東洋アルミグループでは環境を守ることが持続的な発展の基本だと考えています。

環境を守る活動の主たる取り組みである省エネルギー活動について、2013年度にグループで取り組んだ内容をご紹介します。

グループ全体で削減したエネルギーはCO<sub>2</sub>排出量に換算して表すと1,691t-CO<sub>2</sub>になりました。

これは2012年度排出総量の1.9%に該当します。

各事業所で取り組みを進めましたので代表例とともにご紹介します。

### 省エネルギー活動取り組み成果【CO<sub>2</sub>換算】

事業所	主な項目
八尾	ボイラーの効率的運用
群馬	VOC脱臭炉連動
新庄	エアードライヤーの冬場の停止
日野	溶解炉燃焼改善によるA重油削減
御所	フィルターケーキ乾燥エア使用量削減
東海	圧延機クーラントポンプインバーター駆動化
TEP	空調機室外機散水効率向上
千葉	空調運転時間コントロール
TTF	照明器具のLED化

### 削減成果

総量: 1,691t-CO<sub>2</sub>

参考: 2012年度排出総量 90,811t-CO<sub>2</sub>

備考: 削減数量は2013年度の生産品種や生産数量に基づいて算出したものです。

備考: 事業所名はそれぞれ下記の通り

東海: 東海アルミ箔(株)    TEP: 東洋アルミエコープロダクツ(株)  
 千葉: 東洋アルミ千葉(株)    TTF: トーヤル テクノフロンティア(株)

### 群馬製造所

### VOC(Volatile Organic Compounds)脱臭炉連動

群馬製造所では製造工程で有機溶剤を使用していますのでその対策として脱臭炉を設置しています。

印刷機などの加工機から排出される揮発性有機化合物: VOCは大気汚染の原因物質となるため、脱臭炉で処理してから大気に排出しています。

今回脱臭炉の使用方法を見直して、電力量・都市ガス量の削減を実現しました。

#### 1. 加工機連動

加工設備(VOC発生装置)の運転停止と脱臭炉の運転停止を連動させることにより、無駄な脱臭炉の運転を抑制して省エネルギーを図りました。

#### 2. 燃焼送風機のインバーター化

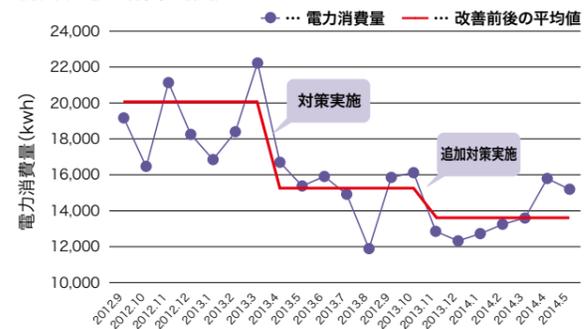
燃焼送風機を調整板で風量調節していたため、インバーター化により省エネルギーを図りました。

成果: CO<sub>2</sub>換算 143トン

#### 脱臭炉都市ガス消費量推移



#### 脱臭炉電力消費量推移



### 八尾製造所

### ボイラーの効率的運用

八尾製造所では製造工程で蒸気が利用されており、複数のボイラーを稼働して蒸気を供給しています。

今回、設備稼働状況と必要蒸気量の調査を実施し適正な運用をすることにより省エネルギーが図れることが想定されました。

そこで設備稼働台数に応じてボイラー運転台数を増減することにより都市ガスを削減しました。

成果: CO<sub>2</sub>換算 370トン



ボイラー

### 新庄製造所

### エアードライヤーの冬場の停止

新庄製造所ではアルミニウムペーストの製造工程で圧縮空気を多量に使用しています。

そして圧縮空気に含まれる水分は製品の品質に悪影響を及ぼすために、除湿機(エアードライヤー)で水分を取り除いています。

冬季には空気中の水分が下がるので、エアードライヤーの稼働を停止しても問題が無いことを確認し、ルールを決めて電力の削減を図りました。

成果: CO<sub>2</sub>換算 95トン



エアードライヤー



## CSR活動について

東洋アルミグループのCSR活動に対する考え方は、経営理念の中の「社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。」という言葉に集約されています。

社会からの信頼を得ることがなければ、企業の持続的発展はできないからです。

この考え方に基づいて、安全衛生推進、環境調和、品質保証、コンプライアンス推進、情報セキュリティ推進の5点に重点を置いた取り組みを展開しています。



またこれらの5点の活動をさらに展開する形で、東洋アルミグループ全体のAKS(明るく健康な職場作り)の推進、さらに企業活動のグローバル展開により増大する海外での活動も含めた全社危機管理体制の構築に取り組んでいます。

本年の報告書では、特集として、グループ全体で取り組んできた省エネルギー活動を取り上げました。さらに、ダイバーシティマネジメント、地域社会への貢献活動、学術支援活動の内容も充実させました。東洋アルミグループ共通の課題や進むべき方向をご理解頂ければ幸いです。

今後もこれらの取り組みを積極的に展開していくことによって、CSR活動の充実に努め、お客様を始めとしたステークホルダーの皆様から信頼される企業グループであることを目指していきたいと考えています。皆様の一層のご理解とご支援をお願い致します。

取締役常務執行役員CSR推進室長

福井 康司



- 7・CSR活動について
- 8・CSR基本方針/CSR行動憲章
- 9・CSR活動アクションプラン
- 11・コーポレート・ガバナンス
- 12・コンプライアンスの取り組み

## CSR基本方針

東洋アルミグループは、健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指します。そのために、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動の展開、安心してお使い頂ける製品品質の提供、地球環境と調和した経営活動の推進および労働安全衛生を職場の最優先事項とした活動を通じて社会的責任を果たす経営を展開して参ります。

## CSR行動憲章

東洋アルミグループは、アルミ箔事業、パウダー・ペースト事業、ソーラー事業、日用品事業を中心とした商品・サービスの提供を通じて広く社会に貢献する。そのために健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指して、以下の7原則に基づき行動する。

### 1.法令遵守

関係法令および規則を遵守することはもとより、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動を行う。

### 2.消費者・顧客の満足と信頼

社会のニーズを適確に把握し、社会的に有用で安全な製品・サービスを開発、提供し、消費者および顧客の満足と信頼を獲得する。

### 3.社会との関係

広く社会とのコミュニケーションを図るため適正に企業情報を開示し、また、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。企業活動においては公正で自由な競争を行う。また地域社会との良好な関係の構築に努め、良き企業市民として積極的に社会に貢献する。

### 4.従業員のゆとりと豊かさの実現

人を大切にする企業として、従業員の多様性・人格・個性を尊重し、安全と衛生を第一と考えた働きやすい職場環境を確保し、従業員のゆとりと豊かさの実現に努める。

### 5.国際社会との協調

グローバル企業として、人権を含む各種の国際ルールや現地法を遵守するとともに、現地の文化や慣習を尊重する。

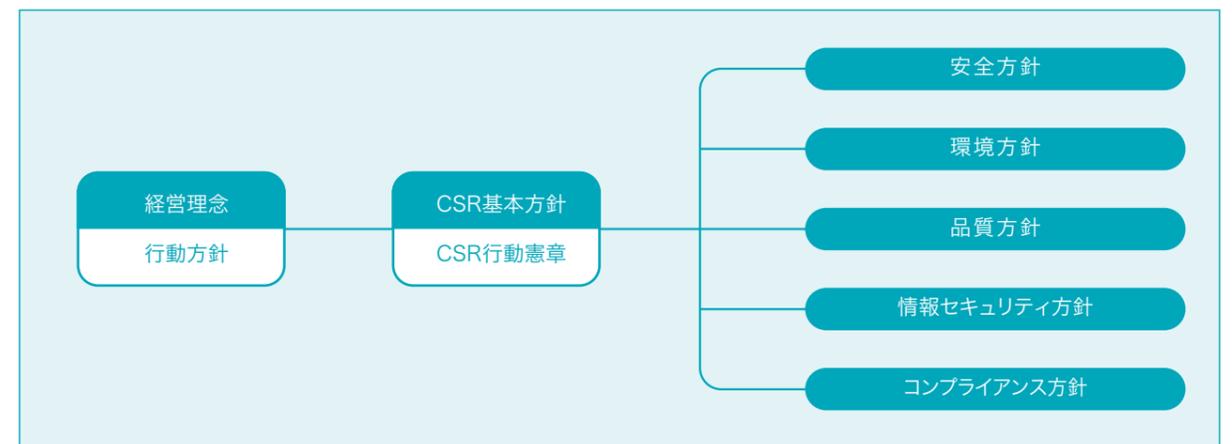
### 6.環境への取り組み

環境への取り組みは、企業の存続と活動に必須の要件であるとして主体的に行動する。

### 7.行動憲章の周知徹底

経営トップは本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識して率先垂範し、グループ全体に徹底するとともに、取引先にも促す。

### 経営理念とCSR基本方針



## CSR活動アクションプラン

東洋アルミグループでは、安全衛生推進・環境調和・品質保証・情報セキュリティ推進・コンプライアンス推進に重点を置いたCSRの取り組みを進めています。

また不測の事態に対処するための組織的な危機管理、社会への貢献活動、従業員の心の健康を守るための「明るく健康な

職場作り活動(AKS活動)」も当社のCSR活動の重要な課題と なっています。

それぞれの活動における2013年度の主な実績、2014年度 の重点活動を一覧表にしたアクションプランを作成しました。

項目	2013年度実績	評価	主な実施例	2014年度重点活動
安全衛生推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全ミーティング</li> <li>社長パトロール</li> <li>東洋アルミグループ職場安全活動発表大会</li> <li>リスクアセスメントのPDCA仕組み作りの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内各製造事業所で1回実施、中国の製造事業所で1回実施</li> <li>国内各製造事業所で1～3回実施</li> <li>国内製造事業所代表職場発表大会を1回実施</li> <li>数箇所個別指導を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全ミーティング</li> <li>社長パトロール</li> <li>東洋アルミグループ職場安全活動発表大会</li> <li>リスクアセスメントのPDCAを回す仕組み作り</li> </ul>
環境調和	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境目標(省エネルギー:原単位で1%改善、産廃削減:原単位で2%改善)</li> <li>環境監査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業所にて省エネルギー活動や産廃削減活動の実施</li> <li>5事業所にて実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境目標(省エネルギー:原単位で1%改善、産廃削減:原単位で2%改善)</li> <li>環境監査の実施(グループ会社への展開)</li> <li>改正された各法令(水質汚濁防止法、省エネ法)への対応</li> </ul>
品質保証	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質監査</li> <li>新製品立上げ時品質審査会議</li> <li>ヒューマンエラー防止策の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> <li>△</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内各製造事業所で1回実施</li> <li>箔事業関連:3件、日用品関連:2件、パウダー・ペースト関連:5件実施</li> <li>一部の事業所のみで実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ各事業所相互の品質監査による品質保証レベル向上</li> <li>新技術、新製品、4M(ヒト、モノ、設備、方法)変更時における品質審査会議による品質事故未然防止</li> <li>ヒューマンエラー防止策の展開</li> </ul>
情報セキュリティ推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)拡大 御所工場、平野工場拡大認証取得 東洋アルミ千葉株活動開始</li> <li>内部監査員レベルアップ研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2013年11月に御所工場、平野工場拡大認証取得 2014年年初より教育訓練開始(東洋アルミ千葉株)</li> <li>内部監査前に対応できるスケジュールにて実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)規格改訂対応</li> <li>東洋アルミ千葉株拡大認証取得準備(2015認証取得目標)</li> </ul>
コンプライアンス推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>独占禁止法・下請法関連リスクの対応</li> <li>コンプライアンス推進グループ体制の強化</li> <li>コンプライアンス・ミーティングの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>△</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>独占禁止法力量テストの実施</li> <li>専門家による独占禁止法、下請法講演会の実施</li> <li>グループ全体への展開が未実施</li> <li>東洋アルミグループ全社員を対象に実施(2回/年)</li> <li>全社統一テーマによるミーティングの開催(SNSのリスクについて)</li> <li>経営会議にてハラスメント、SNSのリスクに関するDVD視聴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス推進のPDCAを回せるシステムの構築 推進計画書の提案、実施 推進グループの体制見直し 確認会議の提案、実施 相談ラインの周知</li> </ul>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークチームの活動の具体的な展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業所へのマニュアル作成指導</li> <li>グループ総合防災訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルの作成と横展開・見直し実施</li> <li>グループ総合防災訓練の実施</li> </ul>
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人軽金属奨学会の活動支援</li> <li>さらなる地域社会貢献活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人軽金属奨学会への活動支援</li> <li>地域社会活動へ積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人軽金属奨学会の活動支援</li> <li>さらなる地域社会貢献活動の推進</li> </ul>
AKS活動(明るく健康な職場作り活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>AKSワークチーム定例会議</li> <li>AKS講演会</li> <li>各事業所AKS活動</li> <li>AKSアンケート(従業員満足度調査のための)の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AKS定例会議の実施</li> <li>AKS講演会の実施</li> <li>事業所毎に実施</li> <li>2013年10月にグループ従業員など約2,000人を対象に実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AKSワークチーム定例会議</li> <li>AKS講演会</li> <li>各事業所AKS活動</li> <li>AKSアンケートの結果からグループ会社対策検討会実施と対策の実行</li> </ul>

備考：○=達成 △=一部未達成 ×=未達成

## コーポレート・ガバナンス

東洋アルミグループでは2010年に東洋アルミグループ経営理念ハンドブックを冊子として初めて全社員に配布しました。全社員に携帯させる事で経営理念や行動方針をより明確に示し、社員の行動の指針となるようにしています。

加えてCSR基本方針、CSR行動憲章も掲載し、CSR体制を構築するよう努めています。

### 内部統制システム

東洋アルミグループでは、金融商品取引法に基づく「適正な財務報告を作成する」為のプロセスを構築すると共に、会社法に基づく「リスク管理」や「独占禁止法」などの法令遵守姿勢を明確にし、監査・見直し・改善を進めながら、グループ会社全体の内部統制システムの充実を図っています。

### リスクマネジメント

東洋アルミグループでは、グループリスク管理規則において、グループにおけるリスク管理に関する基本的事項を定め、

事業を取り巻く様々なリスクに対して、事業戦略と調和した的確な管理を通じ、企業価値の持続的向上に資することとしています。

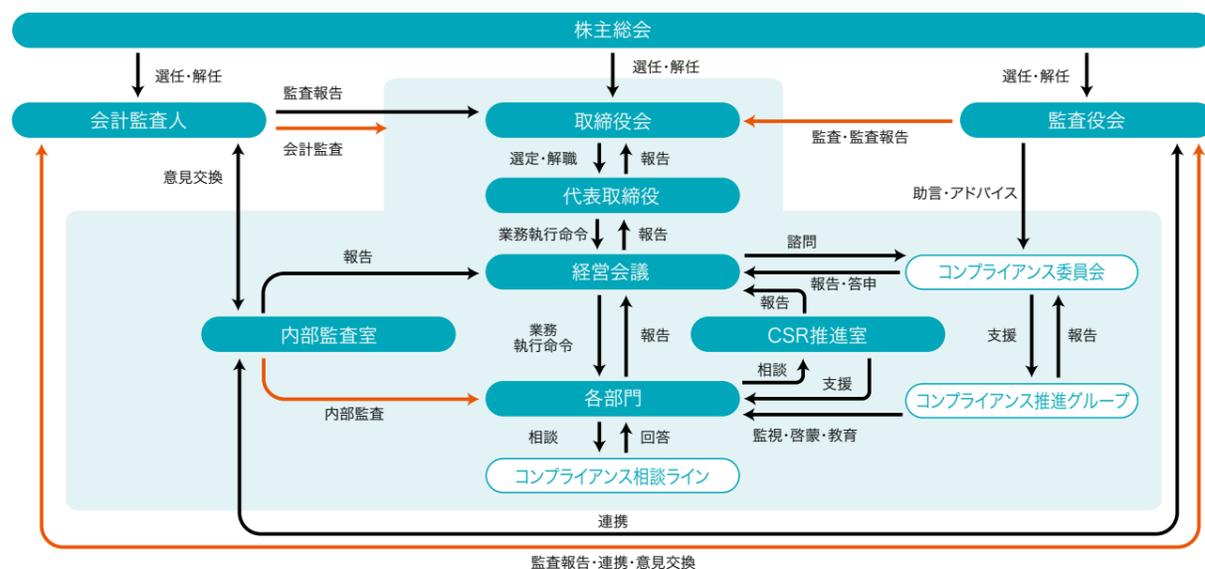
個別の取り組みに加えて、東洋アルミグループとして総合的な管理が必要なリスクを「重点対策リスク\*」と定め、リスク管理推進のための担当部門を定めています。2013年度には、事業のグローバル化に対応すべく今までの8つの「重点対策リスク」に加え、9つ目として「海外危機管理」を追加し、更なるリスクに対する対策を実施していきます。

この「重点対策リスク」については、内部監査室が担当部門に対し総合的な監査を半期毎に行い、その結果を経営会議に報告します。経営会議メンバーは、リスク管理責任者に対し必要な助言を行い、特に取り組みが不足しているリスク管理については、是正措置の検討を指導します。

#### \*重点対策リスク

- |                |               |
|----------------|---------------|
| (1) 製品・サービスの欠陥 | (6) 企業・個人機密流出 |
| (2) 環境問題       | (7) 適時情報開示の懈怠 |
| (3) 自然災害・事故災害  | (8) 安全保障貿易管理  |
| (4) 安全・衛生問題    | (9) 海外危機管理    |
| (5) 情報システム問題   |               |

### コーポレート・ガバナンス体制



## コンプライアンスの取り組み

### 基本姿勢

東洋アルミグループのコンプライアンス活動の基本姿勢は、CSR(企業の社会的責任)の観点から、法令および社会的規範を遵守し、健全な企業活動を維持向上できる企業風土を構築することにあります。

### コンプライアンス体制

東洋アルミグループのコンプライアンス体制は、2003年12月よりコンプライアンス委員会を活動母体としてスタートしました。

現在、全社コンプライアンス委員会は年2回開催されており、そこでグループ各社および各事業所といった活動ユニット単位でのコンプライアンス活動の実績が報告されるとともに意見交換や情報共有も行っています。

具体的には、ユニット単位で洗い出して評価された法的リスクの課題がどの程度改善されたかの進捗報告と職場単位で開催されているコンプライアンス・ミーティングの実施状況について報告が行われています。

なお、各ユニットのコンプライアンス活動は、ユニット毎に設置されたコンプライアンス推進グループがリーダーを中心に、教育・啓蒙・モニタリングを行っています。

併せて、内部通報制度である「コンプライアンス相談ライン」の制度趣旨についてアナウンスを継続して行っています。

### 独占禁止法(独禁法)講習会

大阪・東京オフィス

大阪・東京オフィスに弁護士の先生を招いて独禁法講習会を実施しました。当社の営業マンが約110名出席しました。今後も継続することで意識の向上を目指します。

### コンプライアンス教育・啓蒙

東洋アルミグループでは、管理職以上の全役職員に対して毎年、コンプライアンス誓約書の提出を求めています。

また、独禁法監査や下請法セミナーを定期的に行い、企業活動における当該法的リスクの教育・啓蒙を行っています。

そして近年は、グループ会社にも独禁法監査を横展開しています。2013年度は営業部門を対象とした独禁法力量テストを行い、そのフィードバックとして弁護士による独禁法社内講習会や購買部門を対象とした外部講師による下請法講習会も実施しました。

また、新たなリスク対応としてSNSリスクに関する教育・啓蒙活動も始めました。

### コンプライアンス相談ライン

前述のとおり、東洋アルミグループでは内部通報制度として『コンプライアンス相談ライン』を設置し2006年より運用しており、その機能を果たしています。

特に近年はハラスメントに係る相談事案が多いことから、コンプライアンス・ミーティングや外部専門家である弁護士の講話においてもハラスメントを取り上げています。



### 今後の課題

東洋アルミグループは事業規模を拡大しています。特に近年M&Aを活発に行ったことから、グループ会社へのコンプライアンス活動の横展開に注力しています。

また、海外での事業展開も活発であることから、海外へのコンプライアンス活動の横展開も必要であると考えています。

環境への取り組みは、  
企業の存続と活動に必須の要件として  
主体的に行動する。



- 14・ 東洋アルミグループの環境方針
- 15・ 環境目標への取り組み
- 17・ 環境会計/環境マネジメントシステム
- 18・ 環境に関する規制遵守の状況

## 東洋アルミグループの環境方針

### 基本理念

東洋アルミグループは、「地球環境と調和した経営活動を通じて社会に貢献する」という認識の下、企業活動のあらゆる面で地球環境保全を重要課題と位置付け、持続可能な社会の構築に向けた取り組みを継続して推進する。

### 方針

1. 省エネルギー、省資源、廃棄物減量化、資源リサイクルを推進する。
2. 製品の設計・資材の調達・生産・流通・販売・使用・廃棄に至る各段階で環境に配慮した取り組みを行う。
3. CO<sub>2</sub>、フロン、その他有害物質など地球環境に負荷を与える物質の低減に取り組む。
4. 環境に関する法律、条例、協定を遵守し、行政の施策に協力し、国際的な協調に努める。海外事業展開にあたっては、投資先国の環境上の基準を十分に把握し、環境に配慮した取り組みを行う。
5. 環境保全に関する社員教育を実施し、社員一人ひとりが地球環境問題の重要性を自覚して保全活動に努めるようにする。

### 環境目標

私達は次のような環境目標を設定し、実現に向けて取り組んでいます。

1. **省エネルギー** 原単位で毎年1%以上の改善  
(電気、ガス、重油等の使用量削減)
2. **産業廃棄物** 原単位で毎年2%以上の削減  
(製造工程から出る廃棄物の削減)

### 環境調和推進策

上記の目標以外にも、次のような環境を大切に活動を開いています。

(※1)トールロータス® TOYAL LOTUS®は、消費者がヨーグルトを食する際の衛生性、廃棄時のクリーン度を高め、尚且つ利便性の向上につながる新機能性包装材料です。

(※2)PET ポリエチレンテレフタレート

### ◎東洋アルミニウム(株)

#### ・箔事業本部

1. 発生するスクラップの再生地金やペースト原料としての活用。
2. 圧延油回収量の増加、再利用。
3. 箔加工工程で発生する溶剤排気の大気放出量削減。
4. 環境貢献製品による社会貢献。  
(Liイオン電池用部材、トールロータス®(※1)など)
5. 改善活動でエネルギー使用量削減。  
グループ会社との情報共有により推進(東海アルミ箔(株)、東洋アルミ千葉(株)など)

#### ・パウダー・ペースト事業本部

1. アルミペーストの原料に、アルミ箔残材の有効利用。
2. 工程内の集塵で回収したアルミ粉の再利用。
3. 塗料用としての水性アルミペーストの開発。
4. 当社の急冷アルミ合金粉末製品を用いた車両用部品の軽量化による省エネルギーへの貢献。
5. エネルギーマネジメント活動による省エネルギーの推進。

#### ・ソーラー開発部(旧 ソーラー事業本部)

1. 太陽電池の効率を上げる裏面電極用インキの開発、生産、販売。
2. 太陽電池を支えるバックシートの開発、生産、販売。
3. 生産工程で発生する溶剤排気の大気放出量削減。

### ◎東海アルミ箔(株)

1. 空調機インバーター化による電気使用量の削減。
2. 圧延機補機モーターインバーター化による電気使用量の削減。
3. 改善活動推進(生産性向上)によるエネルギー原単位の削減。
4. 加工歩留まり向上によるトルエン使用量の削減。

### ◎東洋アルミ千葉(株)

1. 歩留まり向上によるアルミ屑の低減。
2. 圧延油の再利用。
3. 生産性向上によるエネルギー原単位の低減。

### ◎東洋アルミエコプロダクツ(株)

1. リサイクルアルミを用いた製品の生産、販売。
2. 製品の包装に再生紙の利用やペットボトルなどを回収再生したPET(※2)容器を利用。
3. ペットボトルなどを回収再生した非塩素系繊維を利用した製品(レンジフードフィルター)の生産、販売。
4. 森林認証機関により審査された木材を使った紙製品の開発、生産、販売。
5. アルミ箔および厚紙屑材のリサイクルの推進。

### ◎グループ全体

1. ペーパーレス化推進による紙使用量の削減。
2. 経済産業省からの省エネルギー協力要請への積極的な対応。

環境目標への取り組み

省エネルギーの推進

東洋アルミニウム(株)では、エネルギーの使用量を原単位<sup>(※3)</sup>で毎年1%以上の改善を目標としています。

2013年度は約5%削減し、目標を達成する事が出来ました。各サイトの改善活動が実った結果です。

2014年度も引き続き、ボイラーやコンプレッサーの適正運転や自家発電機の有効活用などを実施し、各事業所各々が省

エネルギー活動に取り組みます。  
製造に使われる総エネルギー使用量(原油換算<sup>(※4)</sup>)とその原単位およびCO<sub>2</sub>排出量とその原単位は以下のように推移しています。

- (※3)原単位 一定の生産量を製造するのに必要なエネルギーなどの量。原単位が減少すれば効率的に生産していることになります。生産量として重量を用いるか、面積を用いるか、標準換算した生産量を用いるか、売上げを用いるかなどは、各製造サイトに任されていますが、東洋アルミニウム全社で算出する場合は売上げ金額を使用しています。
- (※4)原油換算 CO<sub>2</sub>の換算も含めて、換算係数は年度で変更せずに単一のものを使用しています。

産業廃棄物の削減

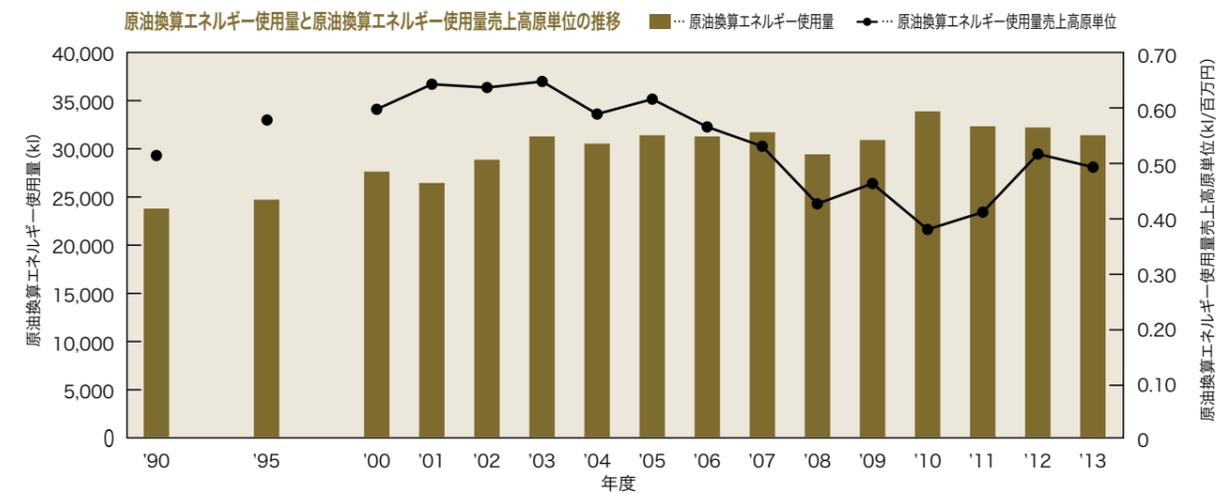
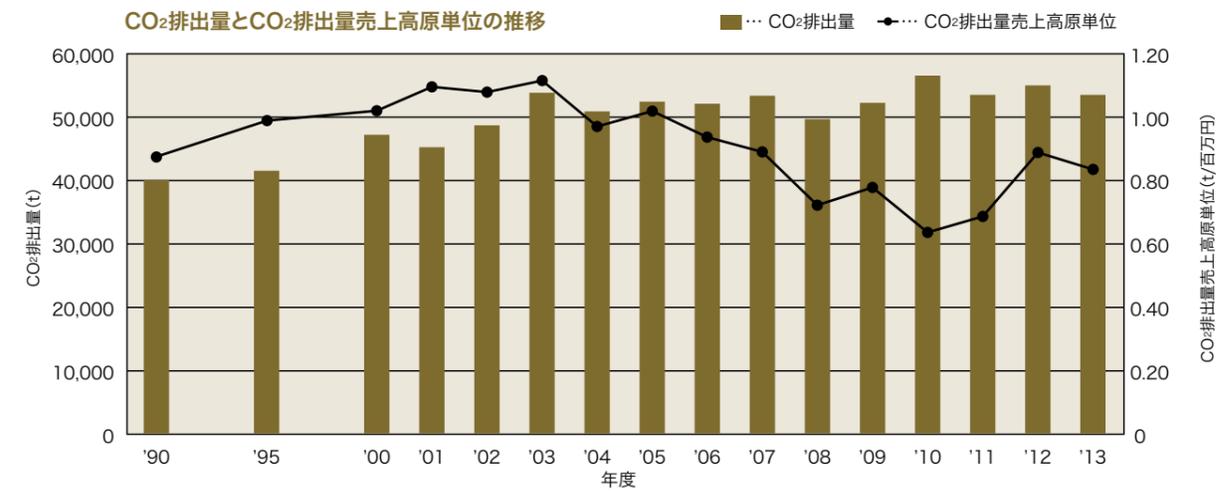
東洋アルミニウム(株)の産業廃棄物削減の目標は原単位で毎年2%以上の削減です。

生産品種構成が変更となり廃プラスチックが減少したため、2013年度は約20%削減し目標を達成しました。

歩留まり向上への取り組みや、インキの再利用などを実施し、今後とも廃棄物の発生抑制と削減に努めます。

東洋アルミニウム(株)の製造にともなう廃棄物重量<sup>(※5)</sup>と、その原単位の推移は以下のようになっています。

(※5)廃棄物重量 有価物として排出しているものも含まれます。



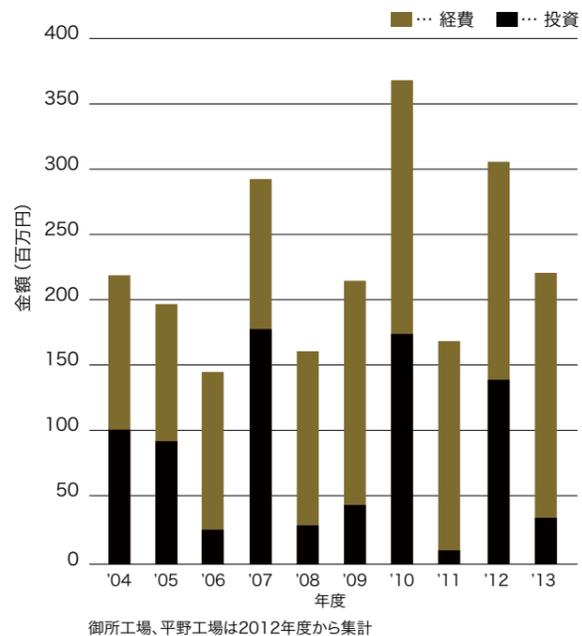
## 環境会計

東洋アルミニウム(株)では環境保全の投資・経費の推移を環境会計として集計しています。

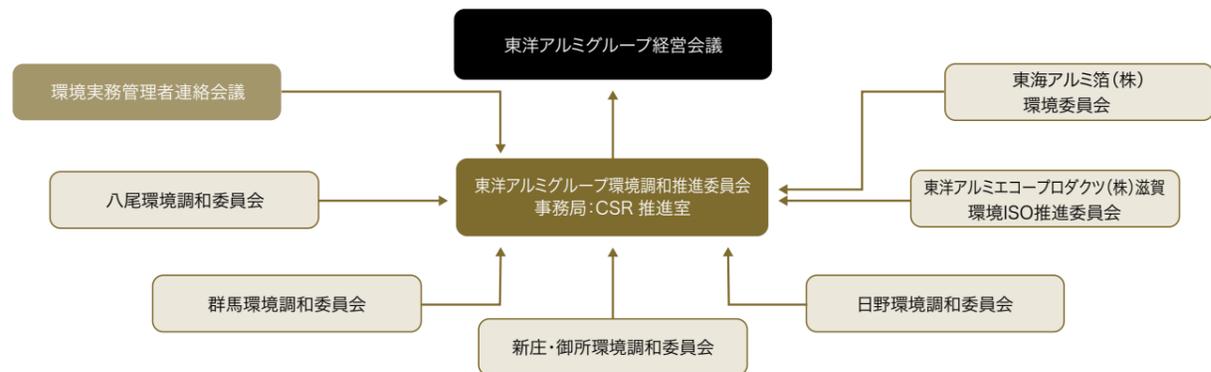
投資は省エネルギー機器や廃棄物処理装置などで、経費は環境指標の測定費用、人件費を含む焼却炉などの運転費用、産廃処理費用などを含みます。

2013年度の投資額は、3,400万円で、コンプレッサーや蒸留器などの設備を導入し、省エネルギー、省資源や産業廃棄物削減などに活かしました。2014年度も引き続き、環境負荷を少しでも削減できるような投資を進めていきます。

環境投資・経費の推移



環境マネジメント組織図



## 環境マネジメントシステム

### 環境マネジメントシステム組織体制

東洋アルミグループでは経営会議の下に役員および関連事業部長で構成される「環境調和推進委員会」を設置し、環境基本方針の具体化と実行に努めています。

八尾製造所と群馬製造所、新庄製造所(御所工場含む)、日野製造所、東海アルミ箔(株)、東洋アルミエコープロダクツ(株)滋賀工場には環境関連の委員会を設置し、またその他の工場などでは、環境会議などを実施し、製造サイトでの環境基本方針の具体化と実行に努めています。

全体の組織図を以下に示します。

### ISO14001 マネジメントシステム認証取得・審査登録状況

会社名・事業所名	認証取得・審査登録時期
東洋アルミニウム株式会社 八尾製造所	2001年 1月
東洋アルミニウム株式会社 群馬製造所	2001年 8月
東海東洋アルミ販売株式会社	2001年 11月
東洋アルミエコープロダクツ株式会社	2003年 3月
エー・エル・ビー株式会社	2003年 3月
東洋アルミニウム株式会社 新庄製造所	2003年 4月
東洋アルミニウム株式会社 日野製造所	2004年 3月
湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司	2007年 5月
東海アルミ箔株式会社(苫小牧工場以外)	2007年 6月
東洋アルミ千葉株式会社	2007年 7月
トーヤル テクノフロンティア株式会社	2008年 2月
東海アルミ箔株式会社 苫小牧工場	2008年 10月
肇慶東洋鋁業有限公司	2010年 10月
トーヤル ヨーロッパ社	2012年 7月

## 東洋アルミグループ環境現場監査

2013年度より、グループ環境現場監査を開始しました。環境現場監査をする事により、グループ会社の環境リスクを軽減し、また他のサイトで実施されている事を参考にすることで、省エネルギーや産業廃棄物削減のレベルアップを図ります。

### 環境に関わる事故・緊急対応

環境に関わる事故およびそれに対する緊急対応については、対応のしくみなどを構築して運用しています。

2013年度は対象となる事故等はありませんでした。

## 環境に関する規制遵守の状況

東洋アルミグループでは環境に関する法律、条例、協定を遵守することを基本方針で決めています。今回の報告書にて特に以下の内容をご報告します。

- ・エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)届出
- ・容器包装に係る分別収集および再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)による再商品化実施委託料支払・ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄処理

### 省エネ法届出

省エネ法では、エネルギー使用量が一定量を超える事業所はエネルギー管理指定工場に指定され、毎年定期報告書や中長期計画書の提出が義務付けられています。

東洋アルミグループでは、東洋アルミニウム(株)と東海アルミ箔(株)、東洋アルミ千葉(株)が対象になります。

それぞれ定期報告書と中長期計画書を提出し、大きな指摘なく受理されました。

### 容器包装リサイクル法による再商品化委託料支払

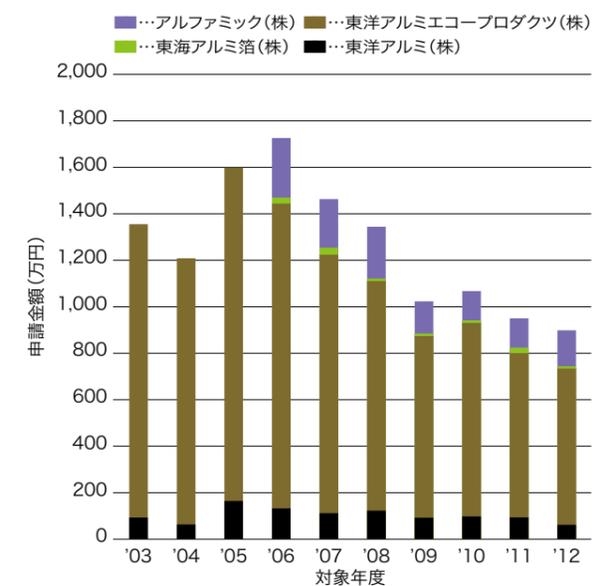
容器包装リサイクル法では、容器包装の製造者と利用者により再商品化(リサイクル)実施委託料と抛却委託料(企業から市町村への資金抛却)の支払いを義務付けています。

紙製とプラスチック製の容器包装について東洋アルミニウム(株)と東海アルミ箔(株)が製造者、東洋アルミエコープロダクツ(株)とアルファミック(株)が製造者と利用者として再商品化実施委託料を財団法人日本容器包装リサイクル協会に支払っています。

過去10年間の再商品化実施委託料金の申請金額の推移を以下に示します。東海アルミ箔(株)とアルファミック(株)の支払額は2006年度から表示しています。

2014年には、2012年度分の約900万円の再商品化実施委託料金に、2011年度分の抛却委託料金と、それぞれ前年の精算金を相殺した金額を支払います。(2013年度分は2015年に確定します)

容器包装リサイクル法 再商品化実施委託料金の推移



### ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄処理

PCB特別措置法および廃掃法に基づき、PCBを含有する電気機器について、その管理および処理を徹底しています。平成39年3月末までに上記電気機器などは全て廃棄しなくてはなりません。廃棄処理できる施設に限られており、簡単には処理できませんが、東洋アルミグループでは、一部のサイトを除いて高濃度PCBを含有する電気機器については処理が終了しました。

残る電気機器についても引き続き期日までに廃棄処理していきます。

広く社会とのコミュニケーションを図るため、適正に企業情報を開示し、  
また、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。  
企業活動においては公正で自由な競争を行う。  
また地域社会との良好な関係の構築に努め、良き企業市民として積極的に社会に貢献する。

## 品質保証の取り組み

東洋アルミグループでは「安心してお使い頂ける製品、お客様の満足を得られる製品、且つ、社会に有用な製品およびサービスの提供」を目指し品質の維持・向上に取り組んでいます。

### 1. 事業所相互品質監査

異なる製品・製造工程を持つ事業所同士が異なった観点から監査をシェアすることで、グループ全体の品質保証体制のレベルアップを進めております。2013年度も引き続き主要事業所の監査を実施し、品質保証体制に問題が無いことを確認しました。

### 2. 新製品品質審査会議

消費者の安全性を脅かすような大きな問題を発生させないため、新製品・新技術を世に送り出す前および4M変更の際に、品質保証の観点から総合的にチェックする品質審査会議を行っています。

最近の対象製品・技術(10件実施)

- 箔製品関連 …………… 貫通箔広幅化 他2件
- 日用品関連 …………… ジェルネイル、温熱エレキバン
- パウダー・ペースト関連 …… 13工場シリカ処理設備改造 他4件

### 3. ISO9001マネジメントシステム認証取得・審査登録状況

前年同様認証を維持しています。(左の表を参照)

## 情報セキュリティの取り組み

東洋アルミグループは、お客様の個人情報、当グループの技術情報等の情報をあらゆる脅威から保護し、お客様と社会の信頼に応えるため2006年4月より情報セキュリティ運営委員会を発足させ、情報セキュリティマネジメントに取り組んでいます。

現在、グループ各社においてISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム国際規格)を認証取得しています(一覧参照)。「情報セキュリティ事故0(ゼロ)」をグループ目標に掲げ、セキュリティ環境の強化を図り、企業の社会的責任を果たしていきます。

### マネジメントシステム新規格への対応および拡大計画

2013年10月にISO27001の規格が大幅に改訂されました。私たちは2014年の年頭より新規格へ対応するべく活動を開始し、文書関係の再構築や社内教育などを実施して2014年10月に移行審査を受け認証を取得する予定です。

2013年に計画していた御所工場と、平野工場のISO27001の拡大認証取得を実現しました。これまで以上に、広範囲での情報セキュリティへの取り組みで機密の流出を防ぐことができるようになります。

### ISO27001マネジメントシステム審査登録状況

会社名・事業所名	事業所名	登録時期
東洋アルミニウム株式会社	大阪オフィス、東京オフィス、八尾製造所(一部)、新庄製造所(一部)	2007年 3月
東洋アルミニウム株式会社	群馬製造所、日野製造所、八尾製造所、新庄製造所(但し、生産現場は除く)	2007年 11月
東洋アルミニウムエコープロダクツ株式会社	全事業所(生産現場は除く)	2008年 9月
東海アルミニウム販売株式会社	全事業所	2008年 9月
東海アルミニウム株式会社	全事業所(生産現場は除く)	2008年 10月
東洋アルミニウム株式会社	御所工場、平野工場(生産現場は除く)	2013年 10月

### ISO9001マネジメントシステム認証取得・審査登録状況

会社名・事業所名	認証取得・審査登録時期
トーヤル ヨーロッパ社	1995年 6月
東洋アルミニウム株式会社 八尾製造所	1996年 10月
東洋アルミニウム株式会社 群馬製造所	1996年 10月
東洋アルミニウム株式会社 新庄製造所	1997年 9月
東洋アルミニウム株式会社 日野製造所	1998年 3月
東海アルミ箔株式会社 蒲原工場	1998年 4月
東海アルミ箔株式会社 茅ヶ崎工場	1998年 4月
東海アルミ箔株式会社 矢畑工場	1998年 4月
東海アルミ箔株式会社 苫小牧工場	1998年 4月
東洋アルミニウムエコープロダクツ株式会社 滋賀工場	1998年 8月
東洋アルミニウム株式会社	1999年 9月
トーヤル アメリカ社	2000年 3月
東洋アルミニウム株式会社 御所工場	2003年 9月
東海東洋アルミ販売株式会社	2004年 1月
湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司	2005年 8月
東洋アルミニウム株式会社 平野工場	2007年 2月
トーヤル テクノフロンティア株式会社	2008年 2月
肇慶東洋鋁業有限公司	2010年 8月

#### お客様との関わり

20・品質保証の取り組み

20・情報セキュリティの取り組み

#### 従業員との関わり

21・安全衛生の取り組み

23・明るく健康な職場作り(AKS)活動

24・ダイバーシティマネジメントの推進

#### 地域社会との関わり

25・地域社会貢献活動

28・学術支援活動

## 安全衛生の取り組み

従業員の安全と健康の確保は製造業の基本要件であり企業存続の基盤であります。

東洋アルミグループは、「労働安全衛生が職場において最優先事項である」という理念の下、東洋アルミグループで働く全ての人の労働安全衛生への意識を高め、安全で働きやすい職場環境を整えるために、活動を進めています。

### 東洋アルミグループ職場安全活動発表大会

2013年7月に「第7回東洋アルミグループ職場安全活動発表大会」を開催しました。

安全活動の発表は、東洋アルミグループ対象12事業所より予備審査を経た7事業所の代表職場が発表しました。

積極的に安全活動に取り組んだ内容の報告があり、グループの全体でお互いに新しく取り入れられる活動を共有することを目的としています。

また、各発表に対して最優秀職場賞、優秀職場賞、優良職場賞を贈呈し、今後も継続的に各職場からアイデアの創出やレベルアップを図っていきます。



職場安全活動発表大会



### 酸欠と火災についての安全体験教育

2013年10月に外部の講師を招いて『安全体験研修』を八尾製造所で開催しました。

テーマは「酸欠の怖さ」「火災爆発体験」として講師による実験を見学して代表者が実際の「小爆発」を体験するというものでした。

「酸欠の怖さ」「火災爆発体験」の体験研修を通じ受講者からは「酸欠や粉塵爆発事故は知識がなければ防ぐことが出来ない」「この体験教育は非常に役に立った」など、安全意識が向上したことを表すものが多数ありました。

今後も、これらの研修を繰り返す事で労働災害の撲滅に向けた活動を推進していきます。



酸欠と火災についての安全教育

### 一般社団法人 日本アルミニウム協会からの表彰

東洋アルミグループの安全活動が評価され、下記の表彰を受賞しました。日野製造所、新庄製造所共に3年連続の受賞です。

**特別優良賞** 日野製造所 **優良賞** 新庄製造所

### 東洋アルミグループの安全関連記録は以下の通りです。

- ・連続無災害4,000日達成(東洋アルミ興産(株) 河南工場)
- ・連続無災害3,000日達成(東洋アルミニウム(株) 日野製造所)

2013年度の災害 東洋アルミグループ全体(国内)  
休業災害1件、不休業災害9件

### 東洋アルミグループ総合防災訓練

2014年1月第2回東洋アルミグループ総合防災訓練を行いました。

首都直下型大地震の発生に加えて南海トラフ地震も連動して発生した事を想定した総合訓練です。

前回の反省を元にした内容に加え、あらゆる通信手段等を用いて各事業所の被災状況把握や各事業所の状況報告などを訓練しました。

同時に安否確認システム(メールによる一斉配信システム)を利用した全社員を対象とする安否確認訓練も行われ、高い回答率が得られました。

訓練全体を通じて学んだ事、課題とされる事などを、次回以降の訓練に取り入れ更なる充実を目指していきます。

また、家庭でも自然災害が発生した際の準備にも目を向けて「災害伝言ダイヤル(171)」を活用できる様に呼びかけました。



グループ総合防災訓練

### 御所工場

#### 消防服着用・緊急ロープ結束コンテスト

消防服着用・緊急ロープ結束コンテストを定期的に行っています。万が一着用せざるを得ない場合に備え、継続的に行う事で手順を忘れないよう全員の安全意識の向上を図っています。

### 群馬製造所

#### 交通安全講習会

警察署の協力を得て「自己防衛の運転への注意すべき状況判断」のテーマで交通安全講習会を実施しました。運転者の認識の甘さが事故に結びつく事を映像や講義によって協力社員も含めた群馬製造所勤務者全員が学びました。

講習会は事故撲滅のための一助にすぎず、通勤事故ゼロを継続させるために、全員が一致団結していかなくてはなりません。

今後はマンネリ化を防止するために、視点を変えた新しい取り組みを計画します。



交通安全講習会



## 明るく健康な職場作り(AKS)活動

明るく健康な職場作り(AKS)活動は、東洋アルミグループの一人ひとりが心身共に健康で、充実感を持って働くことのできる職場作りを目指して2008年度から始めました。

従業員のライフワークバランス<sup>(※6)</sup>の実現に向け、過去にはオフィスの改装・講演会の実施などの活動をしてきました。

2013年度もさまざまな活動を行い、明るく健康な職場作りを進めました。

### 東京オフィス

#### 東京オフィス家族見学会

2013年4月 春休み期間に初めてとなる東京オフィスの家族見学会を開催しました。当日は5家族11名の方に参加して頂きました。

製造所とは違い、現場を見学することができないため、どのような内容にするか苦労しましたが、子ども向けのクイズやトータルロータス<sup>®</sup>の撥水性実演などで、ご家族の方に少しは当社の製品について知って頂けたかと思います。職場見学では子どもたちが走り回ったり、お父さんやお母さんのイスに楽しそうに座っていたことが周囲の方々の笑顔を誘い、とても良い雰囲気でした。

今回は初めての取り組みと言うこともあり、ご家族の方と小学低学年までのお子様を対象に実施しました。次回以降は年齢を問わず皆さんに楽しんでいただける内容を計画します。



東京家族見学会

(※6)ライフワークバランス 東洋アルミグループでは、従業員の豊かな生活を重視し、「ライフワークバランス」という言葉を使っています。

## 八尾製造所

### 製造所内交流会

八尾製造所のAKS活動の一環として、2013年10月から製造所内の2つの工場(圧延工場と加工工場)の交流会を行っています。

目的は、他職場の業務内容を知る事、コミュニケーションを深めることおよび若手スタッフを訓練することです。訪問した側を見学に来られたお客様と仮定し、工場案内をおこないます。

訪問した側はあらかじめ会議室で工場内のプレゼンを受け、工場見学後質疑応答を行います。参加者にアンケートを記入してもらい感想をまとめています。

このような機会を望む声も多数寄せられ、今後更に横展開の実施を検討しています。



八尾職場交流会



## ダイバーシティマネジメントの推進

### 次世代育成支援対策の取り組み

東洋アルミグループは、次世代育成支援対策推進法に基づき、雇用環境の整備に関する事項についての一般事業主行動計画を作成し、平成28年3月31日までの実現に向けて取り組んでいます。

- ① 小学3年生までの子を養育する労働者に対する短時間勤務制度の導入。
- ② 所定外労働削減の為の措置の実施。
- ③ 在宅勤務の場所・時間にとらわれない働き方の導入。

### ダイバーシティの推進

東洋アルミグループは、外国籍社員、障がい者、女性、シニアといった多彩な属性による個性的な能力を有する人財の活用に力を入れています。

外国籍社員については、事業のグローバル化を一層深めていく為にも、国際的な視点から生み出される新しい発想や幅広い考え方が必要不可欠ですので、外国籍社員のキャリア採用や海外留学生の新卒採用などを積極的に活用し、企業風土の国際化を推進していきます。

障がい者雇用については、法定雇用率の遵守は当然の事ながら、それぞれの個性に応じた仕事の創出に努め、貴重な人財の活用を図ります。

女性社員については、役員や管理職といった役職に就く人財がまだまだ多くないので、女性社員の個々のキャリアを支援していけるサポート体制を充実させていきます。また、シニア層の活用に関しては、高いモチベーションを維持しながら働き続けてもらえるエルダー制度を導入し、豊富な経験を活かした技能伝承や重要任務を担ってもらっています。

## ライフワークバランスの推進

東洋アルミグループは、仕事と子育てとを両立させることができるといった、従業員にとって働きやすい職場環境を創り上げることにより、充実した生活とやりがいのある仕事との調和に向けたサポートを推進しています。

具体的には、育児の為の短時間勤務期間を小学3年生までに適用拡大するといった、法定以上の各種制度の醸成に向けて取り組みを進めています。また、ゆとりを持って働くことができる職場環境の整備に向けて、年間総労働時間の削減(定時退社日の実施、計画的な年次有給休暇の取得、半日有給休暇制度、リフレッシュ休暇制度、時間外労働の削減など)について労使での取り組みを継続しています。

### 東京オフィス

#### 障がい者雇用

2013年3月に労働政策審議会は、企業に精神障がい者の雇用を義務付けることが必要だとした意見書をとりまとめました。

4月よりは民間企業の障がい者の法定雇用率が、1.8%から2.0%に引き上げられました。

東京オフィスではこれに先立ち2012年3月より雇用を開始し、雇用者ご本人の努力や取り組みが評価され、NHK「おはよう日本」でその取り組みについての紹介の放映がありました。

今後も、誰もが働きやすい環境作りを目指して更なる努力を重ねていきます。

## 地域社会貢献活動

東洋アルミグループは製品・サービスの提供だけでなく当社グループ全体の資源を活用し、社会貢献を進めています。

### 今須会長 フランス国家功労勲章を受章

2014年4月9日にフランス大使公邸において、今須聖雄会長がクリスチャン・マセ駐日フランス大使より『フランス共和国 国家功労勲章 コマンドゥール』を授与されました。

当社では、1982年にフランスのピレネー山脈の麓の地アクースに於いてアルキャンー東洋ヨーロッパ社・現トータルヨーロッパ社を設立して以来、パウダー・ペースト事業を継続・発展させてきましたが、今回の受章は、第二次産業の少ないこの地方で、32年に亘り堅実な企業経営と雇用の確保をしてきたことがフランス国家への貢献と認められたものです。(会長自身も5年間在籍しました。)



勲章受章後フランス大使と共に  
(写真提供 フランス大使館)

### 人命救助 東京消防庁から感謝状

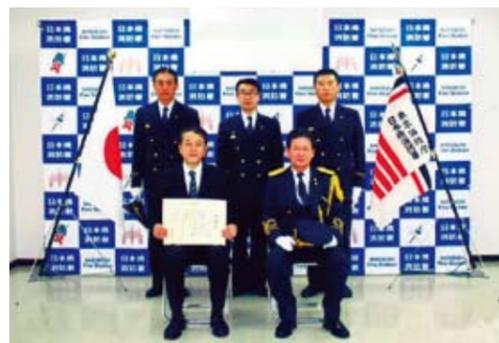
当社、東京オフィスの従業員が東京消防庁日本橋消防署長より感謝状を授与されました。

当社従業員がお客様訪問の為外出中に、とある施設内を移動中突然意識を失い倒れた女性に対して周辺におられた方々と協力し迅速な応急手当を行いました。その結果、この女性は到着した救急車で病院に搬送され、処置を受けて幸い無事でした。

胸骨圧迫法による救命処置が咄嗟にできたことは、日頃の心かけの賜物です。

消防署に通報して下さった方、AEDを用意して下さい下さった方、応急手当を交代して下さい下さった方など周辺におられた方々と一緒になって協力し人命救助につながりました。

この件に関して、社内でも「善行賞」として表彰しました。



表彰後 消防署の皆さまと  
(写真提供 東京消防庁日本橋消防署)



### 御所工場

#### 工場横道路に防犯灯設置

御所工場の東側道路は従業員の出退勤時に必ず通る道路であると共に、近隣の皆さまも通行される道路であります。特に冬場など日没が早い季節は周囲は真っ暗になります。

以前から地域の防犯協会によって蛍光灯が電柱に設置されていましたが、十分な明るさが得られていませんでした。

そこで2013年10月に工場敷地内から道路に向けてLED照明の防犯灯を2基設置しました。

光がよく届くように周りの樹木を剪定したりして工夫をした結果、道路面が以前よりずっと明るくなりました。



防犯灯設置

### 八尾製造所

#### 八尾製造所のアルミ缶のリサイクル活動

八尾製造所では、アルミ缶の回収リサイクル活動を展開しています。

当初は、社員に対するリサイクル意識の啓蒙からスタートしましたが現在では、地域の町内会や老人会、更に、小学校のリサイクル学習テーマの一環として、回収されたアルミ缶を引き取っています。

引き取ったアルミ缶は、弊社にてプレスを行い再生業者に販売し、その販売金額を引き取り価格に転用しています。

年間数量は、約3.5トンに達し、アルミ缶、17万個に相当します。今後とも、アルミ缶のリサイクルを継続し、エネルギーの節約に取り組みます。



アルミ缶リサイクル活動



## トータル テクノフロンティア株式会社

### 自販機を通じて社会貢献活動の取り組み

トータル テクノフロンティア(株)では2台の清涼飲料水の自動販売機を使って、特定非営利活動法人TABLE FOR TWO(TFT)と公益財団法人かながわトラストみどりの財団(みどりの募金)へ売上の一部を自動的に募金しています。

「TFT」は新興国(主にアフリカ)の給食事業を運営するための資金提供と教育支援を行っています。20円が給食1食分に当たるそうです。

「みどりの募金」は、地球温暖化防止のため緑を増やす活動や、自然の大切さ、自然と人との関わりを学ぶ少年団の活動などに協力しています。

トータル テクノフロンティア(株)では、ささやかな募金活動ではありますが、職場で無理なく募金を継続させることに重点をおいています。

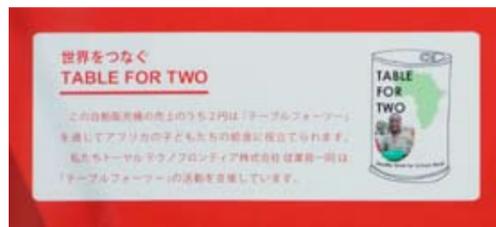


TABLE FOR TWO(募金活動)

## 東洋アルミエコープロダクツ株式会社

### 発電窓シート販売開始

東洋アルミエコープロダクツ(株)では、窓に貼るだけで、光を電池にチャージできるソーラーキット3点セットを開発、販売しました。

普段の生活では特に意識することのない太陽光、この太陽光エネルギーを電池にチャージし、携帯電話やスマートフォンの充電やUSB機器の電源として使用できます。

特徴は、軽い、薄い、自由に曲がり、ガラスの内側に誰でも簡単に取り付けられます。

また、LEDミニライトが付いているので、緊急時のライトや夜間のちょっとした灯りとして利用することができます。

その他にも日射熱を約74%カット、紫外線97%カットの節電窓シートが付いているので、冷房の負荷を低減し、電気代を約40%も削減することができます。



発電窓シート



## 学術支援活動

### 東洋アルミグループでは、軽金属関連の研究を支援しています。



公益財団法人軽金属奨学会は、1955年(昭和30年)1月に、当時の東洋アルミニウム株式会社の創立25周年記念事業の一環として、同社の大株主であったアルキャン・アルミニウム・リミテッドの協力を得て設立されました。

それ以来、東洋アルミニウム株式会社の株式を基本財産とし、その安定した配当により財政基盤が確立し、関係者の理解と協力を得て、研究助成事業の充実と振興奨励事業の新しい展開を図りながら事業活動を続けています。

当会は平成22年8月26日付で公益財団法人として認定されました。

同財団の目的は、軽金属に関する学術の研究および教育を助成奨励し、軽金属工学の進歩に寄与することにあります。

軽金属工業および軽金属工学の振興助成のためには、その基礎となる大学での研究教育を充実させることが大切であるという認識の下に、事業の重点を大学における軽金属教育や研究の助成に置いて、諸活動を展開しています。



総合先端研究成果発表会冒頭の挨拶の様子

具体的な活動としては、教育研究資金、研究補助金、海外交流補助金といった1件としては10万円から25万円と小口ですが多数の先生方を対象にしたものと、課題研究や統合的先端研究といった1件で1,000万円から2,000万円(ともに2年間)になるまとまった研究資金を提供するものがあり、他には各大

学図書館への軽金属関係文献の寄贈、軽金属学会活動の援助、軽金属研究者の表彰などを行っています。

平成25年度に実施された主要な事業としては、教育研究資金、研究補助金、海外交流補助金交付が合わせて93件、統合的先端研究、課題研究の資金交付が各々一件、49大学・高専に軽金属関連文献を寄贈、研究試料の提供は8件、表彰が14件等、軽金属研究者、グループ、学会、研究機関等に対し、総件数166件、それに対する総事業費は4,257万円となりました。

東洋アルミグループは、この財団を設立以来59年間、ずっとその活動に協賛し応援を続けています。

## 大学生フィールドワークの受入れ

2013年12月に日野製造所にて軽金属学会関西支部主催の学生フィールドワークのサポートとして学生の受入れを行いました。

兵庫県立大学から学生が2名参加されました。最初に技術スタッフが講師となり座学を行い、基本的な製品・製造技術について説明を行ないました。工場見学では座学で学んだ内容を実際に見ていただき理解を深めて頂きました。

緊張気味だった皆さまも最後には活発な発言をされるなどし、私たちも有意義な時間を共有する事ができました。



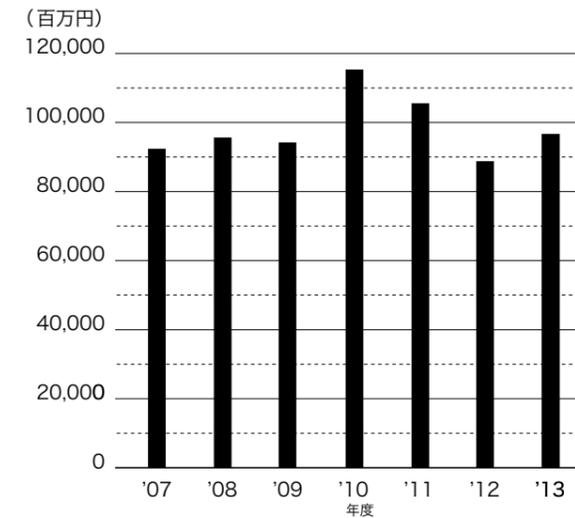
フィールドワーク

# 東洋アルミの概要

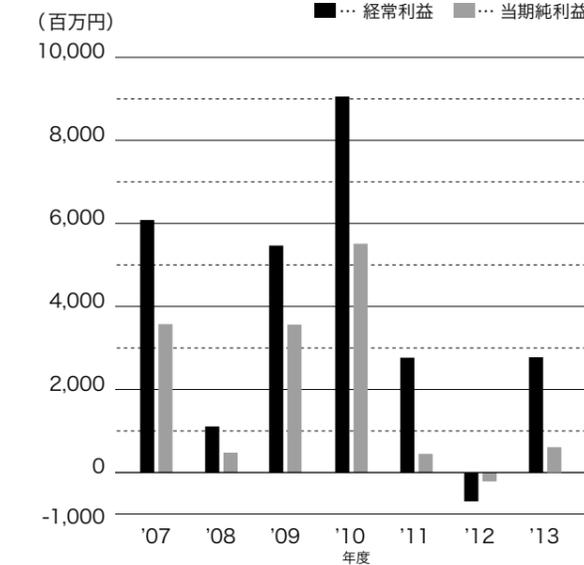
## 会社概要

商号	東洋アルミニウム株式会社	
	Toyo Aluminium K.K.	
本社所在地	〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号	
設立	1999年5月12日 (旧東洋アルミニウム株式会社は 1931年4月7日設立)	
資本金	80 億円	
株主	日本軽金属ホールディングス株式会社 100%	
営業品目	アルミニウム箔 アルミニウム板 アルミニウムペースト アルミニウム粉 アルミニウム合金粉 高純度窒化アルミニウム粉 他	
決算期	3月31日	
従業員	1,015名(2014年3月末現在)	
事業場	大阪オフィス	大阪府大阪市
	東京オフィス	東京都品川区
	八尾製造所	大阪府八尾市
	新庄製造所	奈良県葛城市
	群馬製造所	群馬県伊勢崎市
	日野製造所	滋賀県蒲生郡
	御所工場	奈良県御所市
	平野工場	大阪府平野区

## 売上高の推移(グループ連結)



## 経常利益・当期純利益の推移(グループ連結)



## 沿革

- 1931年 4月 ● アルミ箔と板の製造販売を目的として、カナダのアルキャンと住友との折半出資により住友アルミニウム(株)として創立
- 1950年 4月 ● 財閥商号等使用禁止の政令(財閥解体政策)により社名を東洋アルミニウム(株)に変更
- 1955年 1月 ● 創立25周年の記念事業の一環として財団法人軽金属奨学会(現 公益財団法人軽金属奨学会)を設立
- 1957年 7月 ● 新設の竜田工場(奈良県)において、アルミペーストの生産を開始
- 1966年 4月 ● ビヤス商事(株)(後に東洋アルミ商事(株)と改称)を設立
- 1968年 10月 ● アルミ粉の製造を目的として新庄工場(奈良県)を新設
- 1969年 9月 ● 河南箔加工(株)を設立
- 11月 ● ホイルコンテナ(アルミ箔容器)の製造販売を目的として、米国のエコー・プロダクツ・インコーポレイテッドとの合弁で東洋エコー(株)(現 東洋アルミエコープロダクツ(株))を設立
- 1970年 1月 ● 韓国においてアルミ箔の圧延・加工を行うため、三真アルミニウム(株)(現 三亜アルミニウム(株))を設立
- 1976年 5月 ● 家庭用アルミ箔製品の製造販売を目的として、東洋アルミホイルプロダクツ(株)(現 東洋アルミエコープロダクツ(株))を設立
- 1977年 4月 ● 竜田工場と新庄工場を統合して新庄製造所とし、竜田工場は閉鎖
- 1978年 10月 ● 関東地区でのアルミ箔加工品の生産拠点として群馬工場(現 群馬製造所)を新設
- 1982年 7月 ● フランスに、アルミニウム・アルキャン・ド・フランス社との合弁でアルキャン-東洋ヨーロッパ社(現 トーヤル ヨーロッパ社)を設立
- 12月 ● アルミ粉の専門工場として、日野工場(滋賀県、現日野製造所)を新設
- 1984年 1月 ● 東洋アルミ興産(株)を設立
- 1987年 7月 ● 米国に、アルキャン・アルミナム・コーポレーションとの合弁でアルキャン-東洋アメリカ社(現 トーヤル アメリカ社)を設立
- 12月 ● 高純度窒化アルミニウム粉の本格生産を開始
- 1996年 8月 ● アルキャン・アルミニウム・リミテッドが、全所有株式を日本軽金属(株)に譲渡
- 1999年 5月 ● (株)東洋アルミニウム販売を設立
- 10月 ● 日本軽金属(株)と合併し、(旧)東洋アルミニウム(株)は解散  
(株)東洋アルミニウム販売は、(旧)東洋アルミニウム(株)から営業の一部を譲り受け、社名を東洋アルミニウム(株)と改称し営業活動を開始
- 2002年 10月 ● 東洋アルミニウム(株)は、日本軽金属(株)東洋アルミ事業部(アルミ箔、アルミパウダー・ペースト製造部門)を会社分割(吸収分割)により承継
- 2005年 10月 ● トーヤル テクノフロンティア(株)を設立
- 2006年 4月 ● 東洋エコー(株)と東洋アルミホイルプロダクツ(株)は合併し、社名を東洋アルミエコープロダクツ(株)に変更
- 2007年 4月 ● 中国広東省にアルミペーストの製造・販売会社、肇慶東洋鋁業有限公司を設立
- 10月 ● 日本軽金属(株)から東海アルミ箔(株)の株式を譲り受け、同社を子会社化
- 12月 ● 有色メタリック顔料の製造を目的として(株)ミレニウムゲートテクノロジーに資本参加し、子会社化
- 2008年 4月 ● 東洋アルミ商事(株)は東海アルミ箔(株)から加工箔販売の事業の一部移管を受け、社名を東海東洋アルミ販売(株)に変更
- 2009年 12月 ● 中国湖南省のアルミパウダー製造・販売会社、湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司を子会社化
- 2010年 4月 ● 東洋アルミ興産(株)が、河南箔加工(株)を吸収合併
- 2011年 4月 ● 昭和アルミパウダー(株)の株式を取得し、子会社化
- 2012年 4月 ● 昭和アルミパウダー(株)を吸収合併して御所製造所(現 御所工場)とし、(株)ミレニウムゲートテクノロジーを吸収合併して平野工場とする
- 2012年 10月 ● サン・アルミニウム工業(株)を子会社化し、社名を東洋アルミ千葉(株)に変更



## 東洋アルミニウム株式会社

<http://www.toyal.co.jp/>

大阪オフィス

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号(御堂筋ダイワビル)  
TEL (06)-6271-3151 (代表)

東京オフィス

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号(天王洲郵船ビル)  
TEL (03)-5461-0711 (代表)

